

2010年6月20日

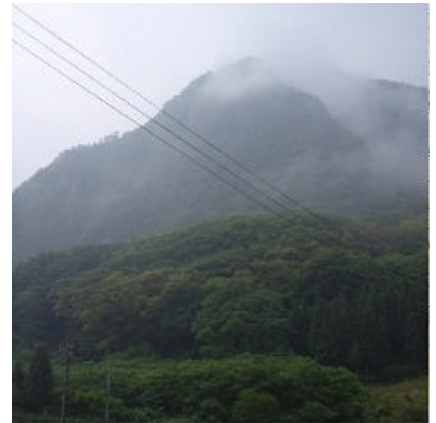
[ルート] 赤沢橋 ⇄ 然ヶ岳  
 [参加者名] CL H.ISOBE 他 15名 一般 2名 合計 18名  
 [コースタイム] 6:30 青森フェリー→7:57 光信公の館→熊の湯(葛西さん合流)→  
 『仙峨の景』標識→赤沢橋→8:30 林道脇駐車・ザック重量計測 8:59→  
 9:14 登山口 9:22→10:04 標高 500m付近→尾根→11:39 山頂・昼食 12:20→  
 13:29 登山口→13:43 駐車地点→鱒ヶ沢海の駅(葛西さんと別れる)→  
 16:28 青森フェリー

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]

国道 101 号線、鱒ヶ沢バイパスを進み、くろくまの滝・赤石溪流に向かう。バイパスから約 15k 位で熊ノ湯温泉。約 500m 位進むと『仙峨の景』の標識がある。ここを左折し赤沢橋を渡る。林道は砂利道。乗用車で登山口まで行ける。登山口に、『然ヶ岳登山口』と書かれている紙が入っているペットボトルが下がっている。

[山行記録]

フェリーPに 17 名集合。MK さんは熊の湯温泉で合流。CL から「鱒ヶ沢地区午後から雨予報だが その前に下山したい」と。曇り空 4 台に分乗して「光信公の館」に向かう。鶴田あたりから雨が降り出し遠くから雷も。雨脚も強くなり藪こぎありなので登山も危ぶまれた。トイレタイムの「光信公の館」前の赤石川向こうに雲が動いて然ヶ岳が堂々と姿を現した。※『仙峨(けわしき)の景』の標識から赤沢橋を渡り 8:30 登山口までの中間地点林道に駐車。雨が止んできた。CL がパイプとばねばかりでザック計量。11~4kg ほとんどは 6kg。余分な物は持たずに歩こうと。下山した時気が付いたが、ハクウンボクの花がほとんど落花してほんの少し残っているだけ。7 年前雲のように広がって咲いていた大木のハクウンボクに再会するのも今日の楽しみの一つだったのに残念。風が無く雨後で湿度高く蒸し暑くはじめから汗が



※『仙峨(けわしき)の景』  
 仙人が住む中国の峨眉山のごとく  
 険しい岩壁を目の前に見ることが  
 出来る の意味とか。鱒ヶ沢町で  
 設置  
 然ヶ岳の 然(シカリ)とは

流れる。15 分ほど歩き登山口着。そこにペットボトルの中に『然ヶ岳登山口』と書かれた紙が入っていた。2 年前に H.I.E.T さんが来た時に書いてくれた標だった。分かりやすい標はありがたく良いアイデア。歩きやすい杉植林、ブナ・ミズナラ混交林を進む。オオヤマオダマキが所々凜と背筋をのばすが俯き趣き深い色で咲いている。30 分も歩いた頃薄暗い林の中にサルメンエビネが 1 本咲いていて黄色が目立った。10:04 標高 500m あたり分岐に古い熊の糞があった。熊が棲む山域だ。分岐から登りは南東の尾根でなく回り込んでから尾根途中を目指す。藪もほとんど無い。斜面にはイワウチワの葉が敷いているかのように一面にあり 花咲く頃は見事だろうとみんなが話す。その時期に来たいが。ギンリョウソウも所々に。ブナの二次林が美しく広がり、周りが全て緑色に覆われている。踏み跡道もはっきり分かり進む。笹が増えてきて CL

が赤テープを付ける。前のテープが見えるのを確認して次を付ける。基本を聞きこの鉄則の説明が重要だと、みんながテープを確認しながら登る。現場での説明実施が身に付き役に立つ。少しガスって幻想的な雰囲気になってきた。そんな緑色の中で、ひときわ目立つヤマツツジのオレンジ色が映え前歩く人を飾っていた。そろそろ山頂か？7 年前に来た時の藪は何処に消えたの？森の切れ間から、

日本海を眺めることができると紹介されていたが 緑に覆われ雲も低く望むすべも無い。『あじがさわ白神山地ガイド倶楽部』が05年頃から白神山地散策コースとして「然ヶ岳コース」を検討してきたようで少し刈り払いしている所もある。登山者の増加で登山道に近い踏み跡もしっかり付いていた。



11:39 山頂。以前と同じ手作りの標識も二等三角点もあった。山頂は仲間が何とか入るくらいの空間しかなく そこで記念撮影。ちょっと下がったところで昼食。12:20 下山開始。赤テープを外しながら下る。少したつと遠くに雷、『まだ明るいから』と話しているうちに急に暗くなり出し雷も近づき雨脚も強くなった。CLから大声で何度も『最後来ているか!』と掛け声がかかり全員を確認しテープを回収しながら下った。ブナ林ではブナの葉が大きな傘になっていて、あまり濡れなかったが雷は怖

かった。13:00 南東尾根を分岐まで下るとその先で雨具を着た。雷は遠のきホッとした。大きなフキの葉を傘にして幼子の気分を楽しんでいた。13:30 登山口着。車まで林道を歩き13:42 着。車に乗り込んで発車したら音を立てて大降りになった。ころころ変わる天気も雷の恐怖が10分位だけで済み 大降りも車中だったのは幸運。「光信公の館」「鱒ヶ沢海の駅」(ここでM.Kさんと別れ)に寄り一路フェリーPへ。解散。(下山中「酸ヶ湯近くの地獄沢登山道付近で火山性ガスによると思われる災害事故が発生」のニュースを聞く。登山道閉鎖が7/1 解除) ★CL H.Iさん記 曇り空の車の中で心配していたら、やっぱり雨が降ってきた。「登山口まで行ってみて登山するかそこで判断する。」そんなこ



と言いながら林道に駐車する頃は雨が上がっていた。山道は歩きやすく雨とあまり関係がないよう。尾根まであがり、いよいよルートファイティングを覚悟していたがすっかり踏み跡ができ以前のやぶごぎはなく、それでも赤布を取り付け安全確保に努めた。雷と雨に悩まされたが全員元気に下山した。皆さんへ感謝しております。

報告 M.MINAMI

